

日本文化政策学会 第5回年次研究大会

2011年12月16日(金)～18日(日)

早稲田大学 国際会議場(18号館)

1 スケジュール

12月16日(金) プレイベント 18:00～18:30 受付 18:30～21:00 ラウンドテーブル「文化の復興/文化による復興」
12月17日(土) 09:30～10:00 受付 10:00～12:00 研究発表(分科会 -1～3) 12:00～13:00 昼休み・休憩 13:00～15:00 研究発表(分科会 -1～3) 15:20～18:00 シンポジウム「文化政策の<文化>を問う」 18:30～20:00 懇親会(大隈ガーデンハウス3階)
12月18日(日) 10:00～12:00 研究発表(分科会 -1～3) 12:10～13:00 理事会(役員のみ) 11:30～13:30 若手ポスタ セッションコアタイム 13:10～13:40 会員総会(会員のみ) 13:50～16:00 企画フォーラム 若手ポスタ セッション 12月17日(土)～18日(日) 常時掲示

2 会場 早稲田大学 国際会議場(18号館)ほか

(東京メトロ東西線早稲田駅下車、あるいはJR・西武新宿線高田馬場駅から都バス・学バス
西早稲田下車)

3 主催 日本文化政策学会

4 共催 早稲田大学演劇博物館グローバルCOEプログラム

5 参加費

大会参加費 会員：1,000円、非会員：3,000円、非会員学部学生：1,000円

イベント、シンポジウム、ポスターセッション、企画フォーラムのみの参加者は参加費無料となります。

懇親会費 5,000円 (学生会員及び学部学生 2,500円)

本年度の大会は、開催校の規則により、大会会場での参加費等の徴収ができません。必ず事前にお振込みいただきますようお願いいたします。なお、大変お手数ですが、振込みの控えをお持ちいただきますようお願いいたします。郵便振替口座00820-3-66194(加入者名：日本文化政策学会)

事前振り込みいただけなかった参加者の方には後日振込みいただきますが、その場合、参加費が各500円ずつ割増となりますのでご了承下さい。

6 問合せ先 日本文化政策学会事務局

〒430-8533 浜松市中区中央2-1-1 静岡文化芸術大学 片山泰輔研究室内

Tel 053(457)6186 Fax 053(457)6132 Email office@jacpr.jp

プレイベント (公開・参加費無料)

主催：日本文化政策学会・早稲田大学演劇博物館グローバルCOEプログラム

12月16日(金) 会場：22号館203教室

18:00~18:30 受付

18:30~21:00 ラウンドテーブル

「文化の復興/文化による復興 ~震災後の文化政策を考える~」

東日本大震災からはや9ヶ月余になり、仮設住宅をはじめ生活関連分野の復興は、様々な問題を残しつつもようやく動き始めている。しかしながら文化分野になると、こうした緊急事態には文化は不要といった声も少なくなく、今後の動きは殆ど見えてきていない。そうしたことから、当ラウンドテーブルでは、日本文化政策学会の皆さんと、16年前の阪神・淡路大震災とも比較しつつ、「文化の復興」と「文化による復興」を討論することで、文化施設や文化事業、あるいは伝統文化など震災後の文化政策のあり方について問題提起を行いたい。

<コア発言者>

被災地県文化政策担当者

被災地施設の民間企業指定管理者

大澤寅雄(ニッセイ基礎研究所芸術文化プロジェクト室)

島添貴美子(富山大学芸術文化学部)

松本茂章(静岡文化芸術大学文化政策学部)

伊藤裕夫(文化政策研究者)

モデレーター：松森隆一(嘉悦大学経営経済学部)

研究大会

12月17日(土)

9:30~10:00 受付 国際会議場1Fロビー

10:00~12:00 分科会 3F 10:00~10:40 10:40~11:20 11:20~12:00

分科会 -1「教育と芸術」 座長 熊倉純子(東京藝術大学) 会場：第一会議室

発表者

川合芳美(静岡文化芸術大学大学院文化政策研究科)

美術館と小学校との連携推進のための課題

- 公立小学校の「美術館との連携」に関する現状調査からの考察 -

西島 央(首都大学東京 准教授)

建物と運用組織・制度の関係から捉える社会教育施設の“居場所の機能”に関する社会学的研究

- 運動部活動と社会教育施設の連携に向けて -

内藤るみ(アーツ・デベロップメント・インターナショナル)

エル・システム USA に観る 21世紀型芸術家育成とその人材輩出が地域社会に及ぼすメリット

予定討論者

日沼禎子(女子美術大学)

日沼禎子(女子美術大学)

日沼禎子(女子美術大学)

分科会 -2「文化財・文化資源と文化政策」座長 金武 創(京都橘大学) 会場：第二会議室

発表者

國盛麻衣佳(九州大学大学院芸術工学府 環境・遺産デザインコース)

炭鉱を歴史的文化資源とした芸術創造による旧産炭地再生計画

日高 昭子(京都橘大学大学院)

地域の記憶の政策の変遷 - 長崎市を事例に -

阿曾村智子(比較文化研究センター)

文化財返還問題の諸相 - エルギン・マーブル論争の普遍性と特殊性 -

予定討論者

阪本 崇(京都橘大学)

友岡邦之(高崎経済大学)

中谷武雄(文化経済学研究者)

分科会 -3「異文化間交流」 座長 菅野幸子(国際交流基金) 会場：第三会議室

発表者

長谷川仁美(ミアカビデオアーカイブ)

アジアにおける非営利芸術団体の現状について

川村陶子(成蹊大学 准教授)

東京ドイツ文化会館の設立 - 「モデル・インスティトゥート」構想の展開と挫折

高岡智子(日本学術振興会特別研究員)

東ドイツの文化政策と「娯楽芸術」の誕生

予定討論者

岡部あおみ(武蔵野美術大学)

小林真理(東京大学)

小林真理(東京大学)

12:00～13:00 休憩

13:00～15:00 分科会 3F 13:00～13:40 13:40～14:20 14:20～15:00

分科会 -1「文化政策と人材」 座長 中川幾郎（帝塚山大学） 会場：第一会議室

発表者 熊倉美聡（静岡県舞台芸術センター）
公益社団法人企業メセナ協議会と我が国の文化政策
石川緋名子（静岡文化芸術大学大学院文化政策研究科）
若手アートマネジメント人材における能力開発の現状と課題
文化施設等で働く職員に対するアンケート調査の結果から -
金武 創（京都橘大学 准教授）
アートマネジメント教育とキャリア開発 文系学部教育との比較

予定討論者 伊藤裕夫（文化政策研究者）
藤野一夫（神戸大学）
藤野一夫（神戸大学）

分科会 -2「日本の文化政策史(1)」 座長 小林真理（東京大学） 会場：第二会議室

発表者 新藤浩伸（東京大学大学院 講師）
公共ホールの公共性および教育機能に関する考察 日比谷公会堂の事例から -
郭 育仁（同志社大学大学院総合政策科学研究科）
祭りをめぐる文化政策に関する考察 ナショナリズムと柳田國男の常民視点との狭間から -
井上好人（金沢星稜大学 准教授）
大正・昭和初期の栗崎遊園にみる娯楽と身体表象 『北國新聞』記事を中心とした分析

予定討論者 徳永高志（アートNPOカコア）
佐藤健二（東京大学）
友岡邦之（高崎経済大学）

分科会 -3 「自由課題A」 座長 曾田修司（跡見学園女子大学） 会場：第三会議室

発表者 越智雄磨（早稲田大学大学院文学研究科）
フランスのダンス支援政策における芸術家の政治関与 「8月20日の署名者たち」を事例として -
上村武男（慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科）
ミュージアム資産を活用するビジネスモデルの構築（試論）
小島 立（九州大学 准教授）
電子出版 出版者及び公共図書館の視点から -

予定討論者 尼ヶ崎彬（学習院女子大学）
太下義之（三菱UFJリサーチ&コンサルティング）
柳 与志夫（国立国会図書館）

15:20～18:00 シンポジウム（公開・参加費無料）

「文化政策の＜文化＞を問う」 会場：1F 井深ホール

世界史的には、20世紀初頭、ヨーロッパで物質文明の発達による人間の危機に対する精神文化の擁護が掲げられ、60年代後半には中国やフランスで、既存の価値体系の全面変革を迫る文化による革命が勃興しました。その後構造主義と結びついて文化が積極概念となる一方、世紀末に西欧中心主義やオリエンタリズムに対する批判として高まった文化相対主義が、世紀を跨いで今日、文化多様性、多文化主義へと変化しています。

本シンポジウムでは、文化政策そのものを世界史的視野から捉え直し、今日的な課題を明らかにすることで文化政策の再構築とその研究のあり方について問題提起します。

15:20 あいさつ 日本文化政策学会会長 中川幾郎

基調講演（15:30～16:10）

「（演題未定）」 大澤真幸（社会学者）
（休憩10分）

鼎談（16:20～18:00）

大澤真幸
山口二郎（北海道大学教授・政治学）
モデレーター：鈴木滉二郎（明治大学特任講師）

18:30～20:00 懇親会 大隈ガーデンハウス3階

12月18日(日)

9:30~10:00 受付 国際会議場3Fロビー (エレベーターで3Fまでお上がりください)
10:00~12:00 分科会 3F 10:00~10:40 10:40~11:20 11:20~12:00

分科会 -1「文化政策と分権化」 座長 直田春夫(NPO政策研究所) 会場:第一会議室

発表者	予定討論者
佐口史華 (静岡文化芸術大学大学院文化政策研究科)	小泉元宏(鳥取大学)
あいちトリエンナ レ2010のまちづくりの有効性	市民ボランティアを対象に -
吉田隆之 (東京藝術大学大学院音楽研究科)	中川幾郎(帝塚山大学)
創造都市政策を取り入れた自治体文化基本条例試案の提示	
- これまでの文化基本条例の動向を踏まえて -	
與那嶺 新(沖縄大学大学院現代沖縄研究科)	中川幾郎(帝塚山大学)
市民的公共性の創造による地域自律型『住民自治』	文化権からの分権化再構成

分科会 -2「日本の文化政策史(2)」 座長 鈴木滉二郎(明治大学) 会場:第二会議室

発表者	予定討論者
高久 彩 (九州国立博物館)	戸ノ下達也(洋楽文化史研究会)
明治初期における博物館政策の変遷	「ミュージアム」思想の受容を通して -
寺田卓也 (神戸大学大学院国際文化学研究所)	戸ノ下達也(洋楽文化史研究会)
1940年代における厚生音楽運動と音楽家たち	
本田洋一 (大阪市立大学 客員研究員)	小林真理(東京大学)
1970、80年代大阪における文化行政の展開	- その特色 -

分科会 -3「自由課題B」 座長 松本茂章(静岡文化芸術大学) 会場:第三会議室

発表者	予定討論者
高橋かおり(早稲田大学大学院文学研究科)	曾田修司(跡見学園女子大学)
文化芸術創造における境界の融解	- 雑誌『地域創造』の変遷をもとにして -
竹田恵子 (お茶の水女子大学大学院)	曾田修司(跡見学園女子大学)
ダムタイプ《S/N》(初演1994年)創作と90年代京都市左京区における市民活動	
久木元 拓(株式会社ディジティミニミニ/オトイ株式会社)	太下義之(三菱UFJリサーチ&コンサルティング)
プロジェクトFUKUSHIMAおよび震災後の音楽フェスにみる共同化のプロセス構築と	
その社会的、経済的、芸術的効用についての検証	

12:10~13:00 理事会(役員のみ)

13:10~13:40 会員総会(会員のみ) 会場:第一会議室

13:50~16:00 企画フォーラム 3F(会場は当日案内します)

企画フォーラムA:文化政策はいかにして可能であるか -文化政策学の根拠を問うことからの展望-

本シンポジウムにおいては、従来の文化政策学の文脈において、文化政策とは何か、文化政策とはいかにして可能であるか、といった政策学の基礎に対応する問いへの自覚的追求がまだまだ不十分であるという認識に基づき、1)ポウモル・ポウエン理論の再検討、2)芸術の歴史的退潮の意義、3)文化政策の公共的価値の条件を主な論点として議論したい。

企画フォーラムB:アートプロジェクトとは何か? -地域社会の「戦略」と芸術の「戦術」-

上記テーマでこれまで行ってきた講座で浮かび上がったいくつかの問題を整理・発展させ、アートプロジェクトを研究してゆく困難や解決策、また新たな知見などを共有する場としたい。

企画フォーラムC:文化政策と『新しい公共』とはどうつながるのか

文化政策を考える際に、国家と市場と地域共同体とがどのようにそれに関わるのかという視点から、所有からアートと社会の関係を検討し、今後、市民・NPOが主体として関わる「新しい公共」と文化政策がどのようにつながるのかをともに考える機会としたい。

若手ポスタセッション 12月17日(土)~18日(日) 常時掲示(1Fロビー)

12月18日 11:30~13:30 若手ポスタセッションコアタイム